



# 御堂筋 ものかたり

絵・文 熱田親喜

を支援されている坐摩神社の宮司を訪ねる機会を得た。鳥居をくぐると、若い神職の2人が作業着姿で紫陽花の鉢植えを運び込んでおられた。子細を尋ねたら「にぎやかなあじさい祭りを夢みています」という、さわやかな答えが返ってきた。あじさい祭りをイメージしながら渡辺紘一宮司に坐摩神社の由来をうかがった。

羅遠征より帰還時に、淀川河口の地に坐摩神をまつたことにはじまるという。以降この地は渡辺津・窪津といわれた河口の港町として、熊野古道の起点として栄えた。

## 熊野古道の起点として栄華

船場の真ん中に位置し、船場の商家に「いかすりじんじゃ」、一般には「ざまじんじゃ」といって親しまれてきた。「いかすり」は「居住地を守る」との意味の「居所知」の転じたものだという。

嵯峨源氏の流れを継ぐ渡辺氏が神社を掌握し、水軍の頭領となる。天正11(1583)年、豊臣秀吉の大阪築城にあたり、現在地に遷座した当時

したものです。イベントの内容には参画せず、陰の抱負を確かめたくなり電話をさせてもらいました」とのお言葉であつた。「アルバムを拝見するので、断言できません」と、神事に関係のない日本の歌曲や和洋楽器などがあつた。昔、船場の裏方事情が聞こえてくるようだった。昔、船場の

時の地名は「渡辺町」であった。これで神社の由緒や「渡辺」が1年越しに判明した。そんな由緒ある神社が、これまで3回も芸術祭を支援してこれたことに、並々ならぬものを感じ、その背景をうかがった。

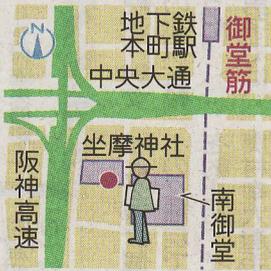
「せんば鎮守の杜芸術祭の実行委員会の熱意と文化交流によるまち作り・縁むすびの趣旨に賛同うちに、芸術祭実行委員

今回のスケッチ画は記録用写真から手描きしたものである。描いている断ち切る防火空間にもなりうることを教えられた。

縁とは不思議なものである。本町交差点の西寄りにある大西ギャラリーで、生け花の展示会の準備をされていた渡辺敏子

さんにお会いしたのは1名と姓名が同じであること年ほど前であった。名刺とに、由緒ある神社と感には坐摩神社(中央区久太郎町4丁目渡辺6)、今回は「せんば鎮守の杜芸術祭」オペラリア

ルーツは神功皇后の新



「せんば鎮守の杜芸術祭の実行委員会の熱意と文化交流によるまち作り・縁むすびの趣旨に賛同うちに、芸術祭実行委員

会の佐久本昇会長に今後の抱負を確かめたくなり電話をさせてもらいました」とのお言葉であつた。「アルバムを拝見するので、断言できません」と、神事に関係のない日本の歌曲や和洋楽器などがあつた。昔、船場の裏方事情が聞こえてくるようだった。昔、船場の

「せんば鎮守の杜のお祭り」は生まれないのだろつか。